大学のなかの人間形成

――主として大学セミナーハウスに関連して

飯田宗一郎

昨年は大学の年といわれ、大学は世論の焦点に立たされたが、問題は少しも好転しないまま越年したので、今年もまた大学の年であることに変わりはない。研究体制の上から、教育的機能の上から、あるいは学生に対する自治と管理の上から、そして私学は経営の上から大学の理念と現実との混乱に苦悩している。このような現状において心ある大学人は、大学とはどういうところなのか、果して大学はこれでよいのだろうかと大学の教育的姿勢に疑問を投げている。私は昨年キリスト教学校教育の三月号に「学生になれない大学」という小文を書いたが、大学に入学した学生が真の意味の学生になれない教育不在の問題が研修会などで討議されているので、そのような表題をつけたのであった。

思想のもとに教育人口は急激に増加し、いわゆる社会的要請に応え ながら世界有数の大学国となるまでに膨脹した。しかしてのような ながら世界有数の大学国となるまでに膨脹した。しかしてのような を経験を重ねて大学と社会が納得して発足したのでないから、運用 と経験を重ねて大学と社会が納得して発足したのでないから、運用 と経験を重ねて大学と社会が納得して発足したのでないから、運用 の過程において誤算を生じるのは避け難いことである。いうまでも なく大学の任務は教育と研究にあり、これこそは歴史を通じ世界を なく大学に与えられた任務なのだから、大学の基本的性格を失い 大学という名のもとに教育不在の場と化している現状を改善するた めに最善の努力を払うべきである。大学はいまこそ人間形成に正し めに最善の努力を払うべきである。大学はいまこそ人間形成に正し い地位を与えなければならない。

このような大学の現実的背景において、人間形成のための新しい

方策としてこの法人は国公私立大学共同の性格をとった。大学セミ 大学セミナーハウスの構想は正にそのような現実の中で培われた教 芽ばえつつあることは好ましいことであるといわなければならない。 い。近年わが国の大学のなかにゼミナールを設けようとする気運が る現状に対処してもう一度との新しい課題に取組まなければならな ないが、いずれにしても教師と学生との人間的接触を困難にしてい 諸条件が余りにも多いことを思えば全てが大学側の責任とはいい得 が、期待通りの成果をあげ得ない。もちろん人間形成を妨げている 学は人間形成を重要な任務の一つとして取上げ一般教育を課した る。大学の歴史の浅いわが国は人間形成の試練に乏しいため新制大 はその伝統がある。そして人間の教育に最も強く効果を発揮してい として活用するのが効果的であると思われる。ヨーロッパの大学に 手段を講じるとすればそれは何であろうか。巨大化する大学の中で の責任で改善しようという新しい方向に先鞭をつけたからである。 が高く評価されるもう一つの理由である。大学教育は国公私立共同 ナーハウスが世界に類を見ないユニークな教育施設としてその設立 育的試みである。そして日本の特異な大学の地盤を改善する一つの 人間性の豊かな人間の形成はゼミナールのごとき小集団を教育単位

_

大学教育の光明であり仕合わせである。その活動の実情を具体的にた。そして大学側の反応は期待に違わず活発であることは、日本のし、主として東京地区の国公私立大学の中にその第一歩を踏み入れし、主として東京地区の国公私立大学の中にその第一歩を踏み入れ

説明しょう。

昭和四十一年十二月十八日を例にとれば次のような大学の教授た 昭和四十一年十二月十八日を例にとれば次のような大学多質教 三神教授、東京工大阿武教授、郁立大学生部協議会、そのほかに、 接、明治学院大学吉田教授、順天堂大学生部協議会、そのほかに、 全国的なものとして、近代アジア教育史研究会、日本学生事務管理 全国的なものとして、近代アジア教育史研究会、日本学生事務管理 が究連盟などの研究集会が開かれている。

このような各大学単独のゼミを主とし、しかも文字通り国公私立とのような各大学単独のゼミを主とし、しかも文字通り国公私立たり、正にセミナーハウスこそあるべき大学の姿であり、人間の出たり、正にセミナーハウスこそあるべき大学の姿であり、人間の出たり、正にセミナーハウスこそあるべき大学の姿であり、人間の出たり、正にセミナーハウスこそあるべき大学の姿であり、人間の出たり、正にセミナーハウスこそあるべき大学の姿であり、対話の場である。

について三日間の討議をして意見を一致させたり、東京工大の学長と、二泊三日を基準としているが五日、七日と滞在するグループもある。大部分学生の負担であるが、特種の大学では学生の経費のの法職課程が二週間程度滞在し集中的な勉強をしている。本年の新学年には武蔵工大、津田塾大学などが新入学生のオリエンティションを数日間に亘って実施する計画がある。昨年は文部省が在日留学生のオリエンティションを数日間に亘って実施する計画がある。昨年は文部省が在日留学生のオリエンティションを行なったし、今夏は日米学生会議に場所を提供する。慶応大学の学生部が主催して学生代表と学生会館運営を提供する。慶応大学の学生部が主催して学生代表と学生会館運営について三日間の討議をして意見を一致させたり、東京工大の学長について三日間の討議をして意見を一致させたり、東京工大の学長について三日間の討議をして意見を一致させたり、東京工大の学長といった。

には六四、十一月には六七、 から二五〇〇人の学生を送っている。そして一例をとれば昨年十月 これにつづいているが、約三〇校の国公私立大学が毎月二〇〇〇人 大学であり、東京大学、都立大学、東京女子大学、日本女子大学が ったりする。そしてセミナーハウスを最もよく利用するのは早稲田 での早大鶴岡ゼミの討議が早大紛争解決に一石を投じる原因をつく 行なったり、東京工大が一般教育の新しい試みを実施したり、ここ が学生と懇談会を開いたり、東京神学大が全学修養会を泊り込みで 十二月には五四のセミナーが開催され

ているのである。

えたということであるが、あるべき姿の教育的環境に乏しい日本の 新しい形式で世人が想像できないほど、否、 に滞在して卒論を書いている学生が、昨年の暮から今年にかけて、 現状をよく示している。一人かもしくは友人と七日または十日こと セミナーハウスが当り前なので別天地なのは大学の方なのだ」と答 授は「うちの学生が、セミナーハウスは別天地ですよというから、 スでの彼らの経験はそれを証明している。早稲田大学の川原栄峰教 厳を体得する研学修練の生活に変わるのである。大学セミナーハウ の手段に過ぎなかった大学生活は、学問の楽しさ、 その任務を自覚し、学生がその立場を意識するとき単位をとるため い。われわれに責任を負わされている学生は眼の前にいる。 大学の膨脹が伴う弊害は批判と討議だけでは一歩も改善されな 明治学院、日本女子大に数組いたが、大学教育はこのような 大学当局者でさえ考え 真理に対する尊

> 役割を果たすのである。 の機関や施設による協力もまた大学それ自体の教育の進歩に重要な ことはもちろんであるが、それ以外にも固定した形式をはなれた他 て、そこでの指導こそ、その大学に学ぶ学生のうくべき教育である の教育は、本来それぞれの大学の責任においてなすべきことであっ られないほど、好ましい姿で進展をしているのである。学生のため

る。大学セミナーハウスは自らの企画によって年数回大学共同セミ みにそのセミナーの概要を説明しよう。 公私立大学四五校三五四名の学生がその参加を申し込んでいる。試 月十三日から開始する二泊三日のセミナーには東京および地方から ナーを主催しているのもその理由によるのである。昭和四十二年一 がどこの大学の学生でも自由に聴けるような機会をつくることであ 強調されるように、大学共同の講義である。他の大学の教授の講義 ハウスに対するもう一つの期待は、大河内東大総長や笠信太郎氏が 乏しい国においては、創意工夫が極めて緊要である。大学セミナー 立の差別感が今もなお残っている国において、また大学間の交流の 策を考えても過ぎるということはない。殊に日本のように国立、 学生を立派に教育するためにはあらゆる努力を傾け、 あらゆる方

全体講義 題 実存思想の成立 実存思想と現代 実存の思想

早稲田大学教授 東京大学教授

原

セクション演習

主体性の問題 ヒューマニズムの超克 東京女子大助教授 早稲田大学教授

В A

圭治

樫山欽四郎

D C 実存と神の問題 ニヒリズムの問題 信州大学教授

神奈川大学教授

実存と現代政治 実存主義とマルクス主義 専修大学教授

F E

慶応大学教授

夏牛

飯島 宏祐

宗亨

東洋大学教授

早稲田大学教授 佐古純一郎

松浪信三郎

スト

利用することが、いかに大学間の交流を増進さすのに役立つかはこ としてでなく、広く門戸を開放し、国公私の別なく、平等にこれを ter-University の構成である。セミナーハウスが特定の大学の施設 このように教授陣も参加学生も国公私立大学に亘り文字通り

る社会にただよっているが、さればこそ若い学生に真の対話を経験 い欠けたるを補う新しい構想である。ものごとを必要以上に対立的 ロ大学の弊害が種々論議されるが、セミナーハウスはその弊害を救 うしたセミナーの成果からうかがい知ることができよう。マス・プ に観念的に考えるため、とげとげしい風潮が大学といわず、あらゆ

さす機会を提供する必要があるのである。

的としない講義をきくことの楽しさを学生が経験していることであ をしたい学生が各専門の学者の人格に直接に接しながら、単位を目 ても足りないほどの活発な討議、各大学の学生が入り交って囲む食 私がこのような共同セミナーにおいて感ずることは、本当に学問 正にセミナーハウスが別天地といわれる所以である。 夜を徹し

> 学生たちが感想を寄せるように、セミナーハウスは新しい大学教育 学問をする姿勢ができたとか、一般教育の何たるかを理解したとか、 かの人間形成の機能を発揮するところなのである。時には一般教育 の一つの源泉なのかも知れない。 味であるからセミナーハウスの生活で、大学生活三年にして始めて ークな教育が進展している。セミナーとは若い苗を育てる苗床の意 極的な協力と学生たちの意欲的な参加によって単位にならないユニ 共同セミナーを開催しているが、毎回極めて好評で、教授たちの積 的主題の下に、時には専門教育の深化を目的とする主題を選び、大学 意欲的な学生が集ってつくり出すさわやかな教育的環境が大学のな が交際するラウンヂの風景、このように学生を愛する教師と学問に 教師と学生の個人的問答をつづけるロビーの熱気、 男女の学生

実現への熱情、同志社在学中に授業の後や教会の帰りに岡本春三、 はそのような出会いの場でありたいものである。 との出会い、それは人生の秘儀というべきものかも知れない。大学 育に即した対話をぬきにしては不可能である。人生における人と人 理は口伝による」といわれるが、大学のなかの人間形成は研究と教 の人生観がつくられたことなど、それらは貴重なことである。 きいたり、教室の講義よりはこうした血の通った対話の中で若き日 岡本辰次両先生と共に洛外の山々に登っては山崎為徳の人となりを によって許してもらいたい。創立者新島先生の開拓者的教育の理想 セミナーハウス設立の発想の遠因は同志社人である筆者であること 以上、私はセミナーハウスに力点をおき過ぎたかも知れないが、

(昭6高商卒・大学セミナーハウス専務理事)

日 校

111 端 純 JL 郎

新島・富田・デフォレスト

先年の『同志社九十年小史』にも、東華学校

の人をのぞいて、ほとんど知られていない。 る同志社の分校があったことは、今では一部 明治の半ばに、仙台に「東華学校」と称す

新島は、滞米八年後の明治五年 仙台東華学校設立の中心になるのであるが、 そして宣教師デフォレスト、この三人が後に 身の富田鉄之助という人である。新島と富田 ーヨーク駐在領事心得をしていたのが仙台出 帆してヨーロッパに向かった。この時のニュ 新島は明治五年五月十一日ニューヨークを出 ることになった。北米合衆国の視察をおえた 不二麿に随行して、欧米の学事を視察調査す には維新政府の嘱を受けて、文部理事官田中 元治元年(一八六四)禁を犯して出国した (一八七二)

が、父も母も、また兄も同志社に学んだ中に 不幸にして同志社に学ぶ機会は持たなかった の同志社関係者は淋しい思いをした。筆者は についてはひと言もふれられておらず、仙台

日頃、同志社を心から敬愛している。

喜んでその大略を御紹介申し上げることにし ることがあったら書くようにと命じられて、 編集部から、東華学校について何か知ってい

なお文中の敬称は略させて頂いた。

年間の熱心な牧会活動の後に、アメリカン・

の深い愛情に支えられて立ち直り、

どん底にあった。自身もマラリヤにかかり、 で牧師となっていたが、この年の春に産後の そらく最初であると思われる。新島は三十歳、 その新島と富田が相識ったのは、この時がお はすまいと決心したほどであったが、教会員 病気のために妻と長子を一時に失い、悲嘆の 婚しニューヘヴン郊外のマウント・カルメル 七歳で、前年にエール神学校を卒業して、結 富田は三十八歳であった。もう一人のデフォ レスト(J.Hyde DeForest)は、この時二十 時は自分の使命に疑惑を感じ、二度と説教

東華学校遺址碑

を決定した宣教師はデフォレスト夫妻(日本ある。との年にアメリカン・ボードが日本派遣ある。との年にアメリカン・ボードが日本派遣が、明治七年(一八七四)のことでる決心をした。明治七年(一八七四)のことで

カン・ボード第六五回年会で、この時に新島は会が行われたのがラトランドにおけるアメリてもう一人が実は新島であった。彼らの送別出発直前にエリザベス・スターと結婚)、そし出発直前にエリザベス・スターと結婚)、



年 島の運動に常に好意と敬意を抱き、大学 総領事、駐英公使館一等書記官、明治十五 アメリカに留学したが、 に出て勝海舟に学び、慶応三年 小野村三千石の武士で、 八三四~一九一六)は、 5 設立にあたっても種々援助を惜しまなか 七)三十三歳の時に幕府から遣わされて たことは、 ・銀総裁、東京府知事等を歴任した。 - (一八八二) 大蔵省に転じて、その後 後に外交官として、ニューヨーク 新島書簡集からもうかがえ 維新の報により 藩命により江戸 仙台藩の桃生郡 (一八六 新

> る。 年(一八八五)十二月十三、四日のことであ 言下に仙台を推し、援助を約した。明治十八 たっていた。ちょうどその頃新島が彼を訪 帰国して大蔵省に転じ、 ていたらしい。外交官生活十年の後に富田は に立った学校が欲しいものとかねてから考え け、 ける基督教主義の学校教育に深い感銘を受 る。 か福島がよいかと相談を持ちかけた。富田は 東北に英学校を開きたいが、仙台がよい 郷里仙台にもこのような宗教的基盤の上 富田は在米中、ニュー 日銀設立の準備にあ イングランドに

にすでに、市原を仙台に派遣する考えでいた して仙台に来たのであるから、 げられている。 東北地方への伝道のインスピレーションを得 いた。前年来欧米巡遊中であったが、デフォ を経ており、新しい伝道活動の拠点を求めて 原盛宏宛の書簡には、 たと言われる。事実、 を壁にかけて眺めながら、仙台を中心とした クリフトン温泉で寮養中に、 レストの記すところによれば、 新島はこの時四十三歳、 市原は後に東華学校副校長と 翌年二月二十四日の この東北伝道の志が告 同志社設立後十年 持参の日本地図 新島はこの時 明治十七年冬

くは新島と直接の関係は持っていない。

富田鉄之助 (天保五年~大正五年、

才

レストはその後大阪に伝道し、

しばら

年十一月二十六日日本に到着した。デフ

同じコロラド丸で日本に向かい、

明治七

金を献げられた。

新島とデフォレストは

督教主義学校設立のために五千ドルの

洛

有名な演説を行なって、日本における基

ととアメリカン・ボードに交渉して外人宣教 師数名を派遣してもらうことになった。この 田のその後の折衝によって、富田は郷里仙台 持っていたかがわかる。ともかく、新島と富 のかもしれない。 人の中心人物がそろうことになる。 宣教師の一人として、当時大阪にあったデフ 設備等をととのえ、新島は教師陣を立てると にはたらきかけて、学校のための敷地、 である。 国したのは明治十八年十二月十二日(横浜着) 富田、デフォレストの東華学校設立の三 ストが派遣されることになり、ここに新 先の富田訪問は、その翌日のことで 新島がいかにこの東北伝道に熱意を この欧米巡遊から新島が帰 校舎

立 ٤

旨が初代仙台区長松倉恂、 学校をもう一つ立てることは不可能であった 教育の機関であった。 らに宮城県尋常中学校と改称) された県立仙台中学校 等教育機関が不足していた。明治十年に設立 東京の富田鉄之助から英学校設立の趣 の仙台には、すぐれた内容をもった中 貧弱な地方財政では、 (後に宮城中学校、さ 宮城県知事松平正 が唯一の中等

> て置くことを確認している。ここに一つの問 との時の会合でデフォレストは、学校におい 結果としてはこれは失敗に終ることになる。 になったのである。ボードはこれを一つの新 とに決定した。つまり、非基督者理事会と基 があたり、教師の選任は新島に一任というこ 遠藤敬止、大童信太夫等の仙台の官民有力者 理事には松平正直をはじめ、書記官和達孚嘉、 結果、富田鉄之助と松倉恂が設立者となり、 ストが仙台を訪れ、 た。かくて明治十九年五月に新島とデフォレ 題は、明治十三年来仙台に伝道していた押川 て礼拝を行なうこと、聖書を教科の一つとし しい試みとして注目していたようであるが、 督者教師陣との協力という形で発足すること 直等に伝えられた時、彼らはただちに賛成し 、松倉、 松平等と協議した

なった。 方義が、ちょうどこの頃、ジャーマン・リフ 院) を、 に協議し、 して二つの学校が競争することを避けるため 島デフォレスト、押川、ホーイの四者は相会 学校の設立を計画していたことであった。新 ォームドの宣教師ホーイの協力を得て仙台に 新島は普通中学校を設立することに 結局押川は神学校 (現在の東北学

式に不在となったので、特に卒業生一同に宛

てて仙台から手紙をしたためたが、

その文中

「東華学校の開校式も誠に華々敷く相済

て発足したが、この正式の開校式の時に、 み……慶賀の至り」とある。宮城英学校とし

万

同志社の卒業式と重なったため、

島を迎えて盛大な式典が祝われた。ちょうど 新築を記念して、正式に開校式が行われ、新

(一八八七) 六月十七日、二階建の本校舎の

分校としての「宮城英学校」が設立された。 月十一日、仙台市清水小路九番地に同志社の なる課程で、 生数は一一八名、予科二年と本科五年とから 学部長遠藤彰教授の尊祖父)等があった。 責任者は市原であった。教師にはデフォレス 原盛宏で、新島は京都にいるため、 料千八百円)、支出予算中教員七人の俸給六 寄宿舎百二十五坪、収入予算七千円 設立申請書によれば、敷地五千坪余、 すべて英語で教授された。越えて明治二十年 領等の教科が含まれている。和漢学科以外は トのほかに和田正幾、田中兎毛(現同志社神 百円となっている。校長は新島襄、 こうしていよいよ準備なり、 聖書講議、 聖教証拠論、 明治十九年十 事実上の 副校長市

ざまれ、講堂には新島の知友、 인턴 "Seek Truth and Do Good" 平正直である。新築された本校舎の正面白壁 理事会は「東華義会」と称した。命名者は松 葉の歌にちなんで「東華学校」と名づけられ、 敬宇中村正直

東華学校本館講堂にかかっ 中村正直筆 いる。 碑が建てられた)。 が、その構内に昭和 土地になってい 現在では専売公社の 教育児院に伝わって は現在仙台キリスト がげられた(この額 勿求虚栄」の額がか よって東華学校遺址 の建っていた場所は の筆による「修実徳 徳富蘇峯等に なお東華学校

求勿

感

この本館は、

当時の

往時をしのばせている。 宮城県第二女子高等学校図書館として残り、

の中の一人が後に河北新報の創設者となった 校生徒六名がデフォレストより受洗した。そ 在の仙台東三番丁教会である。当日、 月十三日には、同じ仏寺で正式に教会を設立 日学校をはじめた。翌二十年(一八八七)三 の本願寺を借りて教員の礼拝を行ない、安息 潑な伝道活動を行なった。まず市内東二番丁 うになった。 校は仙台における唯一の中等教育機関とな が種々の理由から閉鎖されたために、東華学 られた。特に明治二十一年宮城県尋常中学校 によって、多くの人材が東華学校に惹きつけ 力健次郎である。 新島の令名と優秀な教師陣、美しい校舎等 優秀な青年がすべて東華学校に集まるよ 「日本組合教会宮城教会」と称した。 教師たちは、教育活動と共に活 東華学 現

かし閉校の背景として陰に陽に大きな力を及 声が学校を支える最も大きな力であった。 くつかの理由がある。直接最大の原因は、 急転直下閉校のやむなきに到ったのには、 このように順調に発展して来た東華学校が -の新島の死である。新島校長の名 阴 しょ

襲にもあわず、

ると、遺言によって仙台の北山に葬られた。

拠地として活動し、

明治四十四年東京で没す

に働き続けた。デフォレストは生涯仙台を根 レストと田中兎毛は仙台に残り、伝道のため 末をもって東華学校は閉鎖せられたのであ

教師の大部分は京都に帰ったが、デフォ

たために、

幸か

空

びたが、その後移転 建築として注目をお 仙台には珍しい洋風

> 東華学校理事会との話し合いの結果、ついに た。こうして明治二十五年(一八九二)三月 た。生徒ももちろん全員が優先的に編入さ を新設の県立中学校が引き継ぐことに決定し 東華学校は閉鎖して、その校舎書籍器具 高であるが、この設立にあたって、県当局と になった。これが後の仙台一中、現在の仙台 五年より県立の中学校を仙台に設置すること 上を置くべきことが定められ、 学校令が改正され、一県に必ず中学校一校以 明治二十四年勅令第二百四十三号を以って中 至った。それに追い打ちをかけるようにして、 には外人教師が総辞職せざるを得ない所まで 十四年には聖書科を廃止し、さらに同年十月 内村の不敬事件に端を廃して、 布以後の急速な反基督教感情の波であった。 ぼしたのは、 教員も何名かはそのまま教師として残っ やはり明治二十三年教育勅語発 宮城県も二十 ついに明治二 切

学校遺

並に址碑建立始末」によれば、

五月に開かれた同窓会の席上、

記念碑の 昭和四年 黒沢良平氏が書いた「旧東華学校沿革略

当時、

東華学校第一回卒業生である

は、

売公社仙台地方局の敷地内に建てられ

東華学校遺址碑(本誌20ページの写真)

昭和七年十月、仙台市清水小路の専

事情の変化と共に閉校せられたのもやむを得 後に熊本県知事として基督教の大弾圧を行な したにすぎないのであるから(理事長松平は 洋文明を受け入れる手段として基督教を利用 ないことであった。特に理事者の多くは、西 という複雑な形で出発したために、 し、設立の当初から仙台市民と同志社の協力 って悪名高い松平正直その人なのである)、

たことも心残りなことの一つであった。しか この大事な時に市原が渡米中で留守であっ () 67 基督教に対する世論の変化と共に基督教を切 り離そうとしたことも、これまたやむをえな しかし東華学校は無駄に消えたのではな

ま か れ た 種 子

仙台市

よっても明らかである。また一力健次郎 残していることは「仙台一高六十年史」等に に受け継がれ、今なお仙台一高の中に余韻を 東華学校の精神は生徒を通じて県立中学校 前

> 台の 青果 財界指導者)、 (作家) 山梨勝乃進(学習院長)、早川萬一(仙 等のすぐれた人材を東華学校は 栗原基 (英文学者)

世に送った。

る。後の同志社神学部教授日野真澄も当教会 お生き続けている。 の歴史の中に東華学校と新島の精神は今もな で受洗した。 しかし最大の遺産は仙台東三番丁教会であ 本年は正に教会創立八十年、そ

(東北学院大学助教授

以て工成るを告ぐ」とある。 祭をなし其冥護を祈り、 十月二十六日先づ天地神祇を祭りて地鎮 天華翁の霊筆を以てし、久光宮司に依し 上に据へ、文界の雄鎮蘇峰翁の名文を筆 にするに臨地の大家梧竹門下の鬼才高橋 碑文はつぎの通り、 十二月三十日を

東 華 学 校 遺 址 碑

建立が決議され、募金の結果できたもの

以有仙臺東華學校之設也。 育人才。補風教。必有待於黌堂焉。是所 富田鐵之助。 松倉恂。有見于此。 明治十九年。 與宮城

人を督励し基礎を三尺深のコンクリート

る物を鳴子峡中に獲、

伊東一郎氏能く下

井に求め名工を同地に索め礎石の雅致あ

「石工菊地平五郎氏に托し良石を稲

二十五年。 自助。 盛宏爲副校長。聘米國博士的法列斯德等 敬止。大童信太夫等胥謀。 鑁詞于石。 同窓之士深惜之欲建碑得予文以記經營之 頗興。人才輩出。成名天下者弗尠。 爲之敎師。揭二目曰。敬天愛人。曰獨立 曰東華學校。 縣知事松平正直。 今旣閱四十餘年。 仍係之銘曰。 入斯黌香。 言誌其始 逮宮城縣興中學校。 推新島襄先生爲校長。 無慮五百有餘名。 東華開學。 書記官和達孚嘉及遠 其遺跡亦將湮滅。 相地建黌。 德富蘇峯撰 尚文起士。 本校逐 學風 市原

薄倖の詩人・雲峰(三)

手 塚 竜 麿

雲峰のメイをたずねる

いる。

内田家を辞してから神戸教諭の案内で松井四町立第一小学校の近くに土屋ョシノ夫人を田町立第一小学校まではかなりの距離でハイヤーでも二十分はかかった。雲峰には一人の姉と二人の兄があったが、その母はなくなり、雲峰は後妻に生れた第一子で、弟が一人あった。土屋夫人はその弟兵三郎の娘だからあった。土屋夫人はその弟兵三郎の娘だからあった。土屋夫人はその弟兵三郎の娘だからあった。土屋夫人はその弟兵三郎の娘だからあった。土屋夫人はその弟兵三郎の娘だからあった。土屋夫人はその弟兵三郎が磯貝家の戸主となってした日に弟兵三郎が磯貝家の戸主となってした日に弟兵三郎が磯貝家の戸主となってした日に弟兵三郎が磯貝家の戸主となってした日に弟兵三郎が磯貝家の戸主となってした日に弟兵三郎が磯貝家の戸主となって

八六五・六・三〇—一八九七・一一・二九) 青山でも大したちがいはない。 むかしから渋谷にあったのだから、 屋夫人は青山だといわれた。もっとも青山は 開校記念日であった。 葬された。この日は、 治三十年十一月二十九日に死亡し、郷里に埋 リカ留学中病をえて帰国し東京で療養中、明 た。現在は安中市になっている。そしてアメ 峰は母ムラの実家である郷原八一番地で生れ から太陽暦では六月三十日である。 ることができた。慶応元年六月八日の生れだ このときはじめて雲峰の正しい生没年を知 死亡の場所について土 くしくも母校同志社の 磯貝雲峰(一 渋谷でも この日雲

三歳年下で、この方は蘆花と同年だった。三歳年下で、この方は蘆花と書いているので、私はてっきり、このふたりは同年生れだと思っていた。明治百年には蘆花・雲峰の生誕百年記念ができると思っていたのに、ふたりは産記念ができると思っていたのに、ふたりは産ができると思っていたのに、ふたりは産ができると思っていたのに、ふたりは

年生れで東電を定年退職された夫君と共に元年生れで東電を定年退職された夫君と共に元気にすどしておられるが、伯父雲峰がなくなって八年目に生れたのでまったくのすれちがいであった。だが、父からきいたことをよくおぼえていて、それを正確に順序よくはなされた。生存者のうちで、雲峰を一番よく知っているのは土屋夫人だと思う。一度もあったことのない雲峰を、「由ちゃん、由ちゃん」といってなつかしがり、伯父のことでたずねといってなつかしがり、伯父のことでたずねといってなつかしがり、伯父のことでたずねとができず感激していた。話の内容はこれからの雲峰研究の手がかりになるものばかりだ

雲峰は米国遊学中に罹病したが、その頃肺患一杯の遺品と共に郷原の磯貝家にかえった。東京で火葬にし遺骨となった雲峰は柳行季

といえばいなかでは忌み嫌っていたので遺骨といえばいなかでは忌み嫌っていたので遺骨は放生のほだいきに葬られていたなまれ、遺骨は故里のほだい寺に葬られた。しかし葬式には徳富蘇

ちに安中教会の牧師となってそこに永住し 集者となった。児島亀士は岡山県出身の金持 校へ転じた雲峰に代って『同志社文学』の編 生である。柏木義円は新潟県の出身だが、の のふたりは雲峰と同年の同志社英学校の卒業 も出版するはずの本も届けられなかった。こ 後任者としてであったが、その頃児島はまだ よれば、児島は、創立(明治二十二年)当時、 ていた。『金城六十年史』(二四・一〇刊)に のセガレで、雲峰より早く金城女学校で教え た。同志社で教えたことがあるが、金城女学 た遺稿のすべてを渡したが、それっきり遺稿 て出版するからというので、持ちかえってい 名古屋にいたようだ。ヨシノ夫人の談では、 ねかれた。雲峰が金城につとめたのは児島の 初代校長のランドルフ夫人をたすけ教頭とし ーストン時代(明治二十六年)に教頭としてま て尽した。また、雲峰は第三代のミス・ヒュ その翌年、児島亀士と柏木義円が郷原へき

になったと伝えられている。となったと伝えられている。となり、それ以来雲峰の遺稿は行方不明後なくなり、それ以来雲峰の遺稿は行方不明なときかされていたという。この児島もそのたときかされていたという。この児島は雲峰と一緒に渡米した模様である。伯児島は雲峰と一緒に渡米した模様である。伯児島は雲峰と一緒に渡米した模様である。伯

日記には、雲峰のほか児島亀士や同期卒業二十三日夜には雲峰宅に七、八名の同窓が集まって新島襄永眠五周年記念の茶話会を開いている。同窓の会合では女子教育の問題が真でいる。同窓の会合では女子教育の問題が真に討議されている。六月末に金城女学校の第二回卒業式(明治二十八年)に招待されたときの模様なども記されている。その年七月と日のところには、

せん約ありたれば其場所と定めたる井手氏

りぬ。俱に食を為し又相撲など(中略)井手氏方へ帰れば諸君

ふを送らんとて同窓有志相会して食を供に

雲峰が父に宛てた手紙一学費の送付を催促している

この日を最後に雲峰は児島と共に名古屋

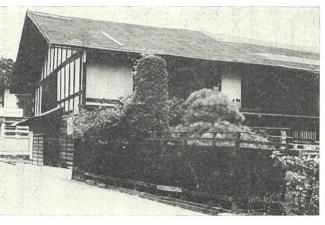
皆来会し居りぬ。方へ行く。(中略

ありて打興じぬ

今夜は磯貝君児島君などの此地を去るとい

は、初耳だと夫人は語ったが、このとき私は、初耳だと夫人は語ったが、もあまりきいていなかったようだ。金城女学校で教えたことなかったようだ。金城女学校で教えたことを去り渡米したのであろうかと想像される。





雲峰は同志社卒業後、『国民之友』、『女学歳だったが、結婚は遂に実現されなかった。 しをきいた。渡米のとき、雲峰はすでに三十 りをきいた。渡米のとき、雲峰はすでに三十 りをきいた。渡米のとき、雲峰はすでに三十

雲峰は同志社卒業後、『国民之友』、『女学雑誌』、『同志社文学』、そして名古屋の金城女学校時代には『中京文学』に拠って文筆をつづ学校時代には『中京文学』に拠って文筆をつづ学校時代には『中京文学』に拠って文筆をつづ学校時代には『中京文学』に拠って文章をつがあった。しかも、そのすべてがキリスト教主義の女学校であった。砂川日記にもその片鱗がみられるが、雲峰はいつも会う人ごとに、がみられるが、雲峰はいつも会う人ごとに、日本をよくするには女子教育を盛んにしなくてはいけないといって女子教育の必要をといたといわれる。

及書を探し出したが、島崎藤村、北村透谷、 文書を探し出したが、島崎藤村、北村透谷、 文書を探し出したが、島崎藤村、北村透谷、 文書を探し出したが、島崎藤村、北村透谷、

はごくわずかである。
はごくわずかである。

同志社女学校時代についてははじめに一言同志社女学校時代についてははじめに一言した。(本誌二十三号)『同志社九十年小史』した。(本誌二十三号)『同志社九十年小史』を日記・枕草子・方丈記・徒然草・古今集)、夜日記・枕草子・方丈記・徒然草・古今集)、ている。この資料は、今後の雲峰研究に役立ている。この資料は、今後の雲峰研究に役立ている。この資料は、今後の雲峰研究に役立ている。

は当然であるが、旧職員に対してはどこでも は当然であるが、旧職員に対してはどこでも は当然であるが、旧職員に対してはどとでも は当然であるが、旧職員に対してはどとでも は当然であるが、旧職員に対してはというだけで、どういう学科を受持ったかは あきらかにされていない。この学校は、昭和 四年の創立四十周年記念のとき、物故者の追 で式を行なった。二十三名の物故教職員のな かに児島亀士と磯貝由太郎の名がみられるの は当然であるが、旧職員に対してはどとでも

ていることを知らされた。このようでありたい。土屋夫人のはなしや、これらの資料を総合して、女子教育家としてこれらの資料を総合して、女子教育家として

雲峰の墓にもうでる

う。その頃夫人の父あてに東京の留岡幸助(家 ら、雲峰の死後十四、五年はたっていたと思 う。この寺のある安中市郷原まではタクシー 所がわからぬままに放置しておいて申し訳な 峰の死は風の便りで知っていたが、遺族の住 留岡は同志社で雲峰の一年先輩であった。雲 庭学校の創設者)から一通の手紙が届いた。 人が読み書きできるようになった頃というか のなかでも夫人のはなしはつづけられた。夫 で十五分ぐらいはかかったかと思う。クルマ のなかに残っているだけである。 ったが、この手紙の文面も、今では夫人の心 人がらがにじみ出ていて心あたたまる思いだ 出を語った。雲峰と留岡幸助、このふたりの を身にしみて感じたといってそのときの思い という。夫人は一字一字読んで伯父のえらさ いといって、丁重な悔みの言葉を寄せてきた 土屋夫人の案内で雲峰の眠る自性寺へむか

> だけでは、とても探し出すのはむずかしい。 由緒ある寺である。新島襄の曽祖父中島忠七 が、自性寺は真言宗豊山派に属し、上州では のたたず、まい、その雰囲気は味えなかった 鷹の羽」を紋付にもちいていたという。 槌」がかたどってあった。雲峰は生前、この 夫人の両親がなくなってから建てられたらし あたりは磯貝姓が多いので、寺の名をきいた の墓のあることは帰京してから知った。この になくなった実母の姉とならべてきざんであ 紋どころをきらい、改姓後も内田家の「丸に 普通の寺院墓地にみられる角型の墓碑は、 墓地へは裏の方から入ったので、山門や寺 雲峰の戒名は、その左横に、同じ年の二月 正面には弟夫妻の戒名と俗名がきざま その上に磯貝家の紋どころ「丸に八ッ

涯精真由居士

た。

俗名磯貝由太郎事 附治三十年十一月二十九

と記されてあった。

そこから旧中仙道に面する郷原の雲峰生誕の家のあったあたりをしばらく眺め、夫人に別家のあったあたりをしばらく眺め、夫人に別家である。そこからまたタクシーをひろい、泉である。そこからまたタクシーをひろい、泉である。そこからまたながったが、精島旧邸へ向かった。もう暗くなっていたが、雨戸をあけてもらってなかを一巡する。十年雨戸をあけてもらってなかを一巡する。十年雨戸をあけてもらってなかを一巡する。十年雨戸をあけてもらってなかを一巡する。十年雨戸をあけてもらってなかを一巡する。十年雨戸をおけてもらってなかを一巡するといいたが、まだまだとれからだと思った。一昨年五が、まだまだとれからだと思った。一昨年五月たずねた中津市の福沢記念館ぐらいには充月たずねた中津市の福沢記念館ぐらいには充りた。

おいま郷土では雲峰の研究が盛んにつづけられている。「安中市誌」(三九・一二 市役所れている。「安中市誌」(三九・上毛警友編集部刊)は絶版になっているが、「英文学の俊才刊)は絶版になっているが、「英文学の俊才刊)は絶版になっているが、「英文学の俊才で、磯貝雲峰」の一節がある。いずれも雲峰研究

(大10年大学英卒・都政史料館勤務)